



Washington Japanese Language School
ワシントン日本語学校

はなみずき

mail:wjls@wjls.org <http://www.wjls.org/>

2023年12月2日発行 第26号

ワシントン日本語学校

[ワシントン日本語学校事務局]

HOT LINE (301)962-7415

TEL (301)962-7410

FAX (301)962-7411



人権週間によせて

校長 三原 洋一

先週の Thanksgiving のお休みは、各ご家庭でゆっくりと過ごされたことと思います。早いもので12月を迎え、今年の授業日は残すところ3日となりました。

学校では、一日一日の授業を大切に、充実した学びを進めてまいります。



プレーグラウンドに目をやりますと、まさに『子どもは風の子』、寒さに負けず元気に遊ぶ子どもたちの姿があります。ここアメリカの地で、子どもたちがこうして元気に遊び、日本語で学びを続けられる機会をいただいていることは、本当にありがたいことだと改めて思います。

さて、日本では、今月の12月4日(月)から10日(日)までが、「第75回人権週間」です。これは、昭和23年(1948年)12月10日、国際連合第3回総会において、全ての人

民と全ての国とが達成すべき共通の基準として、「世界人権宣言」が採択されたことにより、それを受け、法務省と全国人権擁護委員連合会では、12月10日の「人権デー」を最終日とする一週間を「人権週間」と定め、関係機関の協力のもとに基本的人権の尊重を広く国民に呼びかけ、人権意識の高揚を図るための取組を実施することとしています。

今年度の啓発活動重点目標～人権啓発キャッチコピー～は、『『誰か』のことじゃない。』です。様々な人権課題が依然として存在していますが、これらは自分以外の「誰かのこと」、「自分には関係のないこと」では決してありません。人間が人間らしく生きるために、互いが人権意識を持つためには、この人権週間だけではなく、我々が絶えず心がける問題であると考えます。

身近にある人権侵害事象の一つとして、「いじめ問題」があります。私のこれまでの日本の学校現場での経験の中では、子ども達

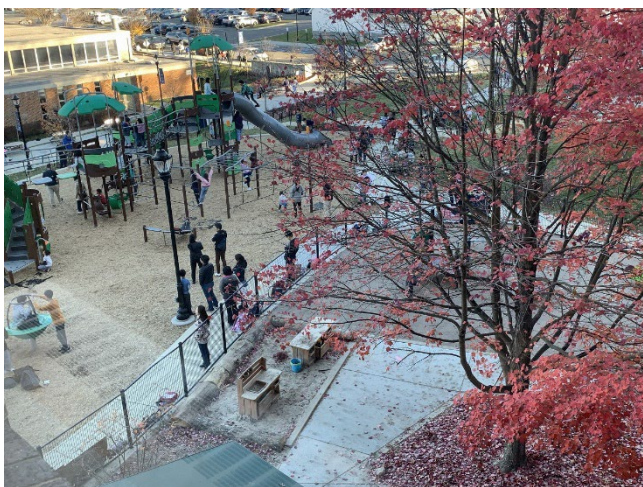


の世界で起こり得る
いじめ問題は、私たち
大人の考えを超える
こともあります。

それらは、時期が
くれば解決するだろ
うというような甘い
考えは、その深刻化
をさらに進めること
になります。まずは、
われわれ大人が「い
じめは絶対にいけな
いこと、決して許さ
れないことだ」とい
う強い明確な意思
を持つことが大切
であると思います。

幸い、本校では現
在、深刻ないじめは
起こっていないと認
識していますが、各
教職員が、どの学級
でも起こりうる可能
性があるという危機
感をもちながら学級
経営を進めておりま
す。毎週のエデュケ
ーション活動の中で
すべての教職員が「
いじめは絶対に許さ
ない」というメッセ
ージを児童に伝え続
けてまいります。

保護者の皆様も、
気になる事案やお子
様にもいつもと違っ
た様子が見られた時
などは、すぐに担任
へお知らせください。
学校では、管理職を
含め全教職員で情報
共有しながら、てい
ねいに対応していき
たいと考えています。



今後も、いじめ等への早期発見・解決を念頭に置き、一人ひとりが大切にされる学校を目指す取組を進めてまいります。そして、い

つもお話していますように、『良さを見つけて褒めて伸ばす』のスローガンのもと、児童一人ひとりに自尊感情を育て、「何事にも自信をもって取り組むことのできる子」「自分の長所を伸ばすことができる子」「自分に自信をもつことができる子」を育みたいと思います。

中高進学説明会の実施

11月18日に、小学部6年生の児童および保護者対象に進学説明会を開催しました。また、12月2日には、中学部3年生を対象に進学説明会を予定しています。本校では、一つ上の学部へ進学を希望する生徒及び保護者については、この説明会への参加を進学の条件としています。

説明会では、現中学部の教員3名(国語科・数学科・社会科の担当)によって中学部の学習内容や家庭学習、生徒および保護者の心構え等についてお話をさせていただきました。

進級するにあたって、現地校と本校の学習の両立は簡単なものではありません。生徒の皆さんには、「学び続ける強い意志」をもっていただき、保護者の皆さんには、生徒の学びをサポートする「覚悟」をもっていただきたいと思います。

次年度からは、小学部から中学部へ、中学部から高等部への進級にあたって、2020年に設定した「国語力向上ベーシックプラン」に基づき、実力テスト50%、出席率50%、課題提出率80%の目標を達成することを一つの目安として、進級の可否を総合的に判断してまいります。

